



## 私の思い出写真館

# 日銀ニューヨーク 100年



**山本 謙三**

NTT データ経営研究所  
取締役会長



2005年1月日本銀行NY事務所百周年記念式典にて。左からボルカーFRB前議長、同グリーンズパン議長、福井日本銀行総裁、筆者=日本銀行米州統括役(いずれも当時)

2005年1月、ニューヨーク。当時の私の勤務先である日本銀行NY事務所は、開設100年の時を迎えた。記念式典には、東京から福井総裁にも駆け付けてもらった。写真は、グリーンズパンFRB議長、同ボルカー前議長に囲まれ、総裁が「並んで撮るなら、脚立はないか」とスタッフに尋ねているところ(笑)。

NY事務所の開設(1905年)は、実は、米国の中央銀行であるFRBの創立よりも早い。当時の日本は、日露戦争遂行のため、どうしても外貨が必要だった。戦艦や物資を海外から手当てせねばならなかったからだ。外貨調達の名を受けた副総裁の高橋是清は、ロンドンに向かい、交渉するも難航。事態は困難を極めたが、その後NYの証券会社クーンローブ商会から「半分を米国で引き受ける」との申し出があった。これを受けてロンドン、NYで外債が発行され、調達が実現した。その発行事務に関連して設けられた

のが、ロンドン、NYの両事務所である。

私は結局都合3回NYに赴任したが、いつも刺激と勇気と真剣な議論を与えてくれる街だった。百周年の記念式典と総裁講演会には、中央銀行、金融関係者、日系企業をはじめ、多くの友人が集まってくれた。ユーモアあふれるスピーチ、歴史をたどる展示品、和やかな談笑。その一つひとつがどれも忘れがたい。戦争という不幸な時期をはさみながらも、長年にわたり親交を深めてくれた先輩方や中央銀行同士の強い絆に、あらためて思いをはせる時でもあった。

ちなみに、クーンローブ商会はその後70年代に別の証券会社と合併し、後のリーマン・ブラザーズとなる。リーマンは2008年に破たんし、すでに日銀本店に帰任していた私は、金融・決済システムの担当として国際金融危機に巻き込まれていくこととなる。写真の中の私は、3年後そのようなことが降りかかろうとはつゆも知らない。